

『どうしましたカード～私と医療をつなぐメモ～』の作成にあたって

「医療と介護のデザインプロジェクト」は、久慈市地域包括支援センターの呼びかけで久慈市の医療と介護の連携を推進するために何が出来るかを考えるプロジェクトとして平成29年12月18日にスタートしました。

プロジェクトのメンバーは、職域も職責も年齢も異なり、意見交換が肝となるワークショップで自由な雰囲気の中、高校生のチームの問題意識の高さに、大人のチームの経験や情報など持てる力で応える相乗効果が発揮され、たたき台も原案もない話し合いの中から、誰でも書きやすい、病状が伝わりやすい、市民が受診時に持って行けるメモの作成を目指すことになりました。

また、問診票の理解を深めるため、市内の医療機関で使用している問診票を集めることとし、岩手県立久慈病院様並びに久慈市内の医院及びクリニック様にお願いしたところ、ご高配を賜り、多数、問診票をご提供いただきました。

拝見させていただいた問診票は、診療科の特性等により多様であり、診断するための補助資料であることに気づかされました。

その気づきの中から、我々にできることは、問診票に記入を求められたとき、正確な情報を記入できるように、医師や看護師に伝えたいこと、教えてほしいことなどを忘れないように、あらかじめ記録しておくための『どうしましたカード～私と医療をつなぐメモ～』の普及だと考えました。

プロジェクトのメンバーの家族や知人等の意見もふまえ、検討を重ねながら完成した『どうしましたカード～私と医療をつなぐメモ～』が広く普及され、久慈市の医療・介護を支える現場の皆様のお役に立ち、我々を含む久慈市民の安心の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本プロジェクトにご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝を申し上げますと共に、今後とも皆様からのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

医療と介護のデザインプロジェクト

